

小さな町の小さな図書館で

岸川 美千代

念願の図書館勤務。ワクワクで向かった図書館への道を通うのもそろそろ6年目を迎えるようとしている。

お世辞にも「立派な図書館」とは言えない環境の中で、共に働く仲間と、「小さい図書館だから出来ること」、「この町だから出来ること」、を考えながら日々過ごしてきた。

年に数回しか作成されていなかった“図書館だより”を、市報に掲載する方法で毎月発行し、全戸配布できるようになり、ちょうど放送の始まったケーブルTVでも毎月図書館のコーナーを設けるというラッキーなことも重なり、市民の皆さんには以前に比べるとかなり周知されてきたのではないだろうか。

昨今注目されている「読みきかせ」についても、出来ることならば週に一度でも読みきかせが行われているのが望ましいが、現状は月一回ボランティアグループの方が行うのみであったものを、少ない職員数と追われる職務の中せめて月一回でもと、職員で始めた「おはなし会」も今年で4年目を迎えた。



H20春の読書週間の様子

春の読書週間には職員が読みきかせをし、図書館をより楽しんでもらうために市内のいろいろな分野の得意な方を講師に迎え、工作などを指導していただく、「としょかんであそぼう！！」を開催。これも今年で2回目となり、秋の読書週間には図書館で読みきかせをしているボランティアグループの方々とジョイントし3時間いつ来ても、おはなしを聞ける「としょかんおはなしマラソン」も今年で2回を迎えた。年々多くの子どもの参加がみられ、何よりその時間を共有できる読み手自身の良い経験となり、また楽しい時間を過ごせることで毎年楽しいイベントとなっている。

その他には、健康推進課と連携しブックスタート運動に参加、4・5ヶ月児を対象に本の読みきかせと絵本の配布を隔月に行っている。ここで驚くのは、今まで家で本を読んでもらったことのないという赤ちゃんが、とてもいい反応をすること。何かおしゃべりをは

じめたり、ニッコリ笑ったり、声をあげたりその反応は様々。お母さん方がとても驚き、また、喜ばれ、その親子がその後、図書館の利用者になることも少なくない。まさに一石二鳥！である。

読みきかせについてももう少し触れさせていただけば、市内の保育園・幼稚園や公民館の児童教室等にも出かけ、絵本はもちろん、パネルシアターや工作、紙芝居などをさせてもらっている。

お陰で入館者、利用者、利用冊数ともに年々伸び続けている。これも職員間で同じ意識を持ち目指して来た結果だと思っている。悲しいかな職員の入替わりが激しいことは残念であるが、いつでも同じ意識を持ち、同じものをめざし、沢山のアンテナを頭の上に立て、それをどれだけ多くの情報源として自分の中に持ち、世の中の関心ごとは何なのか、今何がこの地域の人々に必要なのか、何が求められているのかを見定める努力を怠らず日々過ごして行きたいと思っている。

いつかきっと大きな木になるもの一粒の種となるように。

(きしかわ・みちよ 杵築市立図書館)